

Nihonbashi Opera Tokyo 2023

日本橋オペラ 2023

創立10周年記念

AIDA

Giuseppe VERDI

歌劇 アイーダ

ジュゼッペ・ヴェルディ



日本橋オペラ
NIHONBASHI
OPERA TOKYO

Sunday, May 21, 2023 Nihonbashi Theater Tokyo

2023年5月21日(日) 日本橋劇場



福田祥子

日本橋オペラ研究会(中央区社会教育団体)会長
一般社団法人日本橋オペラ研究会理事長

ご挨拶

本日は日本橋オペラ 2023 歌劇「アイダ」にご来場頂きありがとうございます。本日の公演には、ブルガリアから私の友人であるメゾ・ソプラノのミハエラ・ペロヴァさんが友情出演します。また日本を代表する歌手が勢ぞろいしました。数百名の合唱に加えて、馬が登場するほどのスペクタクルオペラである「アイダ」ですが、室内オペラの編成で、一味違うアイダをお楽しみいただければ幸いです。

さて、日本橋オペラ研究会は 2013 年に発足して、今年で丁度 10 年となりました。これを機に、各界の有識者の皆様に顧問に就任いただき、今月一般社団法人日本橋オペラ研究会を設立しました。これまでの中央区社会教育団体としての活動に加えて、非営利型の一般社団法人として、より社会的な活動を目指していく所存です。

例えば 2015 年にこちらの日本橋劇場で、日本橋オペラ第 1 回公演となる楽劇「トリスタンとイゾルデ」を上演しましたが、その際に編曲され、インターネットで公開していた楽譜は、コロナ禍中、大オーケストラでの上演ができなかったドイツ・ハノーファー国立歌劇場でも演奏され、絶賛され、ワーグナーの母国の音楽文化に貢献できました。また当会で 2021 年に日本初演した、長崎が舞台のフランスオペラ「お菊さん」は、歌劇「蝶々夫人」の原点を発掘したとして、学術的にも高く評価され、日本のオペラ年鑑でも紹介されました。私たちはこれからも、地元日本橋の伝統の上に、価値の高い作品の発掘・研究・上演、さらには次世代のオペラの人材育成をもって、世界の音楽文化の発展に寄与したいと願っています。

今回の公演は 11 月 15 日(水) 当会で研究・編集した楽譜を使用して、ヴェルディの歌劇「グスタヴォ三世」を、タイトルロール／村上敏明、アメリカ／福田祥子、アンカーストレム／寺田攻治、ウルリカ／森山京子他のキャストで日本初演する予定です。この作品は、皆様ご存知の歌劇「仮面舞踏会」の原典版で、当初ナポリでの上演のために作曲されましたが、当局の検閲で許可されず、歴史に埋もれた作品です。

昨今の AI の進化で、人間の芸術活動そのものの価値が問われている時代だからこそ、極限まで非効率な、しかし人間にしかできない、オペラ活動がその真価を発揮していると考えます。みなさまの暖かいご支援に感謝いたします。

一般社団法人日本橋オペラ研究会顧問

馬淵明子氏

美術史家、日本女子大学名誉教授、ジャポニズム学会会長。これまで、国立西洋美術館館長、独立行政法人国立美術館理事長、文化審議会委員、日本女子サッカーリーグ理事長などを歴任

田隅靖子氏

ピアニスト、京都市立音楽大学名誉教授、前京都コンサートホール館長、京都府文化賞特別功労賞受賞

高松富二子氏

国際ソロブチミスト宝塚元会長、高松コンストラクショングループ取締役名誉会長高松孝之氏夫人

岡田恭芳氏

医師、医学博士、医療法人愛育会理事長、聖マリアンナ医科大学臨床教授

シュテファン・メラール氏

ピアニスト、指揮者、前ウィーン国立音楽大学教授、ウィーン国際ピアニスト協会会長

木村 啓氏

弁護士、ニューヨーク州弁護士、弁護士法人第一法律事務所パートナー、同志社大学講師



福田祥子 (Shoko Fukuda) 演出・ソプラノ／アイダ役 (エチオピア王女で女奴隷)

大阪音楽大学ピアノ科卒業。大阪芸術大学大学院声楽専攻修了。第6回大阪国際音楽コンクール第2位。東京二期会オペラ研修所本科首席修了、優秀賞受賞。これまで、ワルキューレ、ジークフリート、神々の黄昏、トリスタンとイゾルデ、さまよえるオランダ人、タンホイザー、蝶々夫人、椿姫、ドン・カルロ、トゥーランドット、トスカ、イリス、オテッロ、イル・トロヴァトーレ、仮面舞踏会、エフゲニー・オネーギン、パリアッチ、お菊さん等にそれぞれ主役級の配役で出演。『圧倒的にして鮮烈な歌声と存在感。生まれながらのブリュンヒルデ』（音楽現代）と批評を受ける。日本人としては稀有の本格的ワーグナーソプラノでありながら、ヴェルディ、プッチーニといったイタリアオペラまで、広範囲のレパートリーを有する貴重な存在である。ウィーンとバイエルンの両国立歌劇場で研修を受け、近年はスタラ・ザゴラ国立歌劇場(ブルガリア)、コシチェ国立歌劇場(スロバキア)などで、蝶々夫人、トスカの主役として度々出演、絶賛されている。また日本各地をはじめ、オーストリア、ドイツ、ブルガリア、チェコ、トルコ、イスラエル、フィリピンなどで、リサイタルやオーケストラと共演をしている。東京二期会、関西二期会各会員。日本橋オペラ会長。一般社団法人日本橋オペラ研究会理事長。

佐々木 修 (Osamu Sasaki)／指揮・編曲



青森県弘前市出身。武蔵野音楽大学卒業。オーストリア政府奨学生。モーツァルトウム音楽大学指揮科最優秀卒業。カラヤン、チェリビダッケなどの巨匠に師事。モーツァルトウム音楽大学オーケストラ常任指揮者をつとめる。1979年カラヤン国際指揮者コンクール入賞。1982年東洋人として初めてザルツブルク国際モーツァルト週間にて指揮「心から自然でしなやか、新鮮なモーツァルト指揮者」(オペラ・コンツェルト誌)と好評を受け、国際モーツァルトウム財団よりバウムガルトナーメダルを授与される。1984年ベルリン・ドイツ響を指揮してドイツデビュー。帰国後、日本各地のオーケストラや合唱を指揮。また NHK-FM シンフォニーコンサート等のパーソナリティ、タモリの音楽は世界だ!等の音楽番組制作、映像・CD・WEB制作、AI特許、女性のためのモバイルコンテンツ「ルナルナ」の創設、開発に携わるなど、マルチなタレントで活躍。(株)マエストロ代表取締役。日本橋オペラ常任指揮者。一般社団法人日本橋オペラ研究会理事。

追川礼章 (Ayatoshi Oikawa) / ピアノ



1994年生まれ。埼玉県立浦和高等学校卒業後、東京藝術大学楽理科を経て同大学大学院ソルフェージュ科を修了。2歳からヤマハ音楽教室で学び、6歳から作曲を始める。現在は歌手の伴奏をメインに全国各地で演奏活動を行う。室内楽ではこれまでにミュンヘンフィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター、ローレンツ・ナストゥリカ氏、NHK交響楽団のメンバーらと共演を重ねる。テレビ朝日《題名のない音楽会》を始めとするTV・ラジオにピアニストとして多数出演。これまで作編曲&ピアノで参加したCDの多くがメジャーレーベルから発売されており、2022年にはNHKラジオ深夜便の歌として自身が作曲、小椋佳が作詞した林部智史「花に約束」が選ばれる。

金管五重奏“ブラス・カプリオール”

Theater Orchestra Tokyoの金管楽器メンバーによるアンサンブル

トランペット:佐藤秀徳 (Shutoku Sato)、林千紗 (Chisa Hayashi)

ホルン:鈴木希恵 (Kie Suzuki) トロンボーン:梅澤駿佑 (Shunsuke Umezawa)

チューバ:田村相円 (Soen Tamura)

打楽器:天野佳和 (Yoshikazu Amano) 東京交響楽団団友

村上敏明 (Toshiaki Murakami) テノール / ラダメス役 (アイダに恋するエジプトの指揮官)



国立音楽大学声楽学科卒業。文化庁在外研修員他の奨学金を得て、2001年より2007年までイタリア・ボローニャに留学。2002年に、オルヴィエート・マンチネリ劇場にて「リゴレット」マントヴァ公爵でヨーロッパデビュー。藤原歌劇団「ラ・ボエーム」「ルチア」「仮面舞踏会」、新国立劇場「椿姫」「蝶々夫人」「愛の妙薬」「カルメン」等に主演し、常に最大級の賛辞を受けている。在伊中、15の国際声楽コンクールで優勝または上位入賞。2012年より、NHKニューイヤーオペラコンサートに12年連続出演。八王子コミュニティーオペラ芸術監督。勝浦歌劇団総監督。藤原歌劇団団員。人気実力ともに日本を代表するテノール歌手として、活躍の幅を広げている。

ミハエラ・ベロヴァ (Michaela Berova) メゾ・ソプラノ / アムネリス役 (エジプト王女)



スタラ・ザゴラ (ブルガリア) 出身。故郷の音楽学校をクラリネットで卒業後、声楽に転向。ブルガリア国立音楽アカデミー (ソフィア) でパンチョ・ウラジゲロフ、イヴァンカ・ニノヴァに師事。2014年ヨーロッパの若い才能を育てるプログラム「Student Practice」に選ばれ、プロブディフ国立歌劇場で研修を受ける。スタラ・ザゴラ国立歌劇場のソリストを経て、現在はヴァルナ国立歌劇場のソリストをつとめる。またヨーロッパ各地に客演。これまで「Joker Media」グランプリ、「Balkan romansiada」(RCIC ソフィア) などを受賞。2017年スタラ・ザゴラ国立歌劇場で、福田祥子の歌った歌劇「蝶々夫人」のスズキ役で共演した縁で、今回の友情出演となった。

森口賢二 (Kenji Moriguchi) バリトン / アモナズロ役 (エチオピア王でアイダの父)



国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。「ドン・ジョヴァニ」のタイトルロールでオペラデビュー。日伊声楽コンクール入選。日本音楽コンクール声楽部門 (オペラ・アリア) 入選。文化庁新進芸術家海外留学制度に合格し研修員としてイタリアへ留学。ローマ・フェスティヴァル 2007 国際コンクール第1位。第22回飯塚新人音楽コンクール第1位。これまでに出演したオペラは、「カルメン」「椿姫」「トゥーランドット」等、43演目55役。コンサートのソリストとしても「第九」「メサイア」「レクイエム」等に出演。現在、藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。オペラサロントナカイ・アーティストティックディレクター。

斉木健詞 (Kenji Saiki) バス / エジプト国王役



国立音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。文化庁在外研修員として渡伊。第78回日本音楽コンクール第三位。二期会『ボッペアの戴冠』セネカ役でデビュー、朝日新聞など各紙で絶賛を博す。その後新国立劇場、日生劇場、びわ湖ホール、兵庫県立芸術文化センターなどに数多く出演、いずれも公演の成功に大きく寄与、国内外の著名な指揮者、演出家の信頼も厚い。深く輝かしい声と存在感で今やオペラに欠かせない存在として、また「第九」「レクイエム」など宗教曲のソリストとして活躍している。来年3月びわ湖ホール『薔薇の騎士』に難役オックスでの出演が決定している。二期会会員。

加藤宏隆 (Hirotaka Kato) バス / ランフィス役 (祭司長)



静岡県出身。東京藝術大学卒業後渡米。ジョンス・ホプキンス大学ピーボディ音楽院および、インディアナ大学ジェイコブズ音楽院にて学ぶ。帰国後は二期会、日生劇場等で多くのオペラに出演。2021年4月、東京・春・音楽祭「リッカルド・ムーティ、イタリア・オペラ・アカデミー in 東京」に「マクベス」バンコで参加。またバッハ・コレギウム・ジャパンメンバーとして国内外の演奏会や録音に参加する等、宗教音楽の分野でも活躍。これまでにソリストとして読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、山形交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団等と共演。二期会会員。

中野智貴 (Tomoki Nakano) テノール / 使者役・アンサンブル



東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。同大学大学院オペラ研究領域修了。在学中、給費奨学生に選出。東京二期会オペラ研修所、第62期マスタークラス修了。修了時、優秀賞及び奨励賞受賞。東京音楽大学創立111周年記念公演「ボエーム」ロドルフォ役を歌う。2019年イタリア、サンタ・チェチーリア音楽院サマーアカデミーに参加。「ボエーム」ロドルフォ役、「コジ・ファン・トゥッテ」フェランド役を歌い、ディプロマ取得。二期会会員。



高橋千夏 (Chinatsu Takahashi) ソプラノ / 巫女長・アンサンブル

昭和音楽大学卒業。第1回日本歌曲コンクール奨励賞受賞。W. マッテウツィ、M. デヴィーア、D. マツォーラ各氏によるマスタークラスを受講。第82回読売新人演奏会に出演。『修道女アンジェリカ』タイトルロール、『カルメン』フラスキータ役、『フィガロの結婚』スザンナ役、『お菊さん』(日本初演)お雪役などに出演、音楽の友、モーストリー・クラシックなどの好評を得る。



石井 武 (Takeru Ishii) 舞踊

現代舞踊の父・石井漢の曾孫として生まれ、幼少より舞踊をはじめ。『祈禱行為』を自身の表現の延長にあるものと捉え、「日本の土着文化」と「現代芸術」の融合を結実させた舞踊作品を多数発表、国内外で高い評価を受け躍進を続けている。東京新聞舞踊コンクール、日本照明家協会特別賞など、受賞多数。



土屋文太 (Bunta Tsuchiya) バレエ

埼玉県出身。やよいクラシックバレエ教室、アスカバレエクラス、井上美代子バレエスタジオを経て新国立劇場バレエ研修所に入所。20年に修了し牧阿佐美バレエ団に入団。

小杉やこ (Yako Kosugi) モダンダンス / リトルスターダンススタジオ所属



森井美貴 (Miki Morii) ソプラノ／アンサンブル

大阪音楽大学卒業、同大学専攻科修了。第 34 回飯塚新人音楽コンクール第一位・文部科学大臣賞を授与しイタリアに留学。また、なにわ芸術祭新人賞・大阪府知事賞・大阪市長賞、KOBE 国際音楽コンクール最優秀賞・兵庫県知事賞、佐川吉男音楽賞等多数受賞。これまでに、椿姫、魔笛、道化師、友人フリッツ、メリーウィドウ等に出演。NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」に出演。関西二期会準会員。



石井揚子 (Yoko Ishii) ソプラノ／アンサンブル

埼玉県出身。法政大学法学部卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第 39 期修了。オペラでは「人の声」女役、「子供と呪文」子供役、「チェネレントラ」クロリンド役等に出演。夏には「フィガロの結婚」スザンナ役、「電話」ルーシー役、「魔笛」パバゲーナ役に出演予定。藤原歌劇団準団員、日本オペラ協会準会員。



東山桃子 (Momoko Toyama) ソプラノ／アンサンブル

岩手県出身。東京藝術大学を首席で卒業。同大学院声楽専攻修了。学部在学中に安宅賞、卒業時に松田トシ賞・アカンサス賞・同声会賞受賞。青山音楽財団奨学生。これまでに、ブラームス《ドイツ・レクイエム》、ヘンデル《メサイア》のソプラノソリストを務める。声楽を杉浦真理、村松玲子、大村博美、菅英三子の各氏に師事。



伊藤いずみ (Izumi Ito) ソプラノ／アンサンブル

洗足学園音楽大学声楽コース卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第 41 期生修了。現在、藤原歌劇団準団員及び日本オペラ協会準会員。《ヘンゼルとグレーテル》眠りの精役、《魔笛》侍女Ⅱ役、《ラ・ボエーム》ムゼッタ役などに出演。これまでに須永尚子、佐藤亜希子、南條年章の各氏に師事。



窪 瑤子 (Yoko Kubo) メゾソプラノ／アンサンブル

日本大学芸術学部音楽学科卒業。東京音楽大学大学院オペラ研究領域修了。第 57 期二期会オペラ研修所修了。2011 年スペイン音楽国際講習会に、スペイン政府の奨学金を得て参加。第 48 回新潟県音楽コンクール声楽部門最優秀賞を受賞。二期会スペイン音楽研究会会員。二期会準会員。ラファエル、アリアス、劇団東俳講師。



古志祐華 (Yuka Koshi) メゾソプラノ／アンサンブル

東京都出身。お茶の水女子大学心理学コース卒業後、社会人を経て昭和音楽大学声楽学科卒業。現在声楽を青木素子氏に師事。これまでに演じた役は「フィガロの結婚」マルチェリーナ、「カヴァレリア・ルスティカーナ」ルチア、「仮面舞踏会」ウルリカ、「リゴレット」マッドレーナ等。「第九」アルトソリストも務める。



佐々木暁美 (Satomi Sasaki) メゾソプラノ／アンサンブル

これまでに声楽を河野克典氏、手嶋眞佐子氏、山下牧子氏、小林由樹氏に師事。また、V. ルキアネッツ氏、M. デヴィーア氏、D. ビツィック氏のマスタークラスを受講。《フィガロの結婚》ケルビーノ《こうもり》オルロフスキー公爵などのズボン役を主なレパートリーとする。



根岸一郎 (Ichiro Negishi) テノール／アンサンブル

武蔵野音楽大学声楽科、早稲田大学第一文学部仏文専修卒業。パリ第 IV 大学比較文学修士課程修了。アンリ・ソーゲ国際コンクール、日仏声楽コンクール、フランス音楽コンクールに入賞。フランス近代歌曲での評価は特に高く日仏声楽コンクール審査員を務める。東京室内歌劇場、日本フォーレ協会他会員。



町村 彰 (Akira Machimura) テノール／アンサンブル

東京大学大学院修士課程修了。現在「聖グレゴリオの家」の教会音楽科在籍中。永井宏氏に指揮法を、青木洋也、大山大輔、T. プファイファーの各氏に声楽を学ぶ。過去にバッハ『マタイ受難曲』福音史家、モーツァルト『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『レクイエム』テノール/バスソリストなどに出演。



吉田 覚 (Satoru Yoshida) テノール／アンサンブル

洗足学園音楽大学ファゴット専攻卒業。その後声楽に転向。洗足学園音楽大学大学院声楽専攻修了。オペラでは「こうもり」アルフレード役、「トゥーランドット」ポン役などで出演。英国 STAT 公認 アレクサンダー・テクニーク教師。アンドーヴァー・エデュケーターズ® 日本公認指導者



片沼 慎 (Makoto Katanuma) バリトン／アンサンブル

日本大学芸術学部卒業。同大学院修士課程声楽分野修了。声楽を齊田正子氏に師事。これまで《ドン・ジョヴァンニ》ドン・ジョヴァンニ、マゼット、《フィガロの結婚》フィガロ、《コジ・ファン・トゥッテ》グリエルモなどを演じる。藤原歌劇団準団員。日本オペラ協会準会員。日本大学芸術学部演奏補助員。



桜井 航 (Wataru Sakurai) バリトン／アンサンブル

東京音楽大学声楽科、同大学院オペラ研究領域修了。篠崎義昭、水野貴子、秋山隆典、羽山晃生の各氏に師事。『フィガロの結婚』伯爵、『トゥーランドット』ピン等出演。二期会合唱団として『天国と地獄』『トゥーランドット』他多数公演に参加。オペレッタの台詞役、YouTube『オペラマガジン♪』など幅広く活動。二期会準会員



川ノ上 聡 (So Kawanoue) バリトン／アンサンブル

鹿児島県出身。国立音楽大学声楽学科卒業。二期会オペラ研修所修了。平野忠彦に師事。これまで「フィガロの結婚」フィガロ役、「コジ・ファン・トゥッテ」グリエルモ役、「こうもり」フランク役などの他、ミュージカルにも出演。喜劇から悲劇まで、役を細かく演じる歌声と芝居に好評を得ている。



高橋雄一郎 (Yuichiro Takahashi) バス／アンサンブル

埼玉県蕨市出身。桐朋学園大学トロンボーン科を経て、声楽を志す。二期会オペラ研修所第 53 期修了。これまでに「フィガロの結婚」バルトロ、「魔笛」ザラストロ、「椿姫」グランヴィル、「ラ・ボエーム」コルリーネ等を歌い演じている。現在、東京混声合唱団レジデントメンバー、蕨市音楽家協会会員。

歌劇「アイダ」あらすじ

第1幕

古代エジプトの首都メンフィス、その王宮の一室。高僧ランフィスと若い將軍のラダメスの対話で始まる。ランフィスは、エチオピア征討軍の総大将の名をイシスの神から神話として受けて来たと告げる。それを聞いたラダメスは、もしその役を受けたら必ず敵軍を打ち破ってやろう、そして美しいアイダと結ばれ幸せを勝ち取ろう、と、アリア「清きアイダ」を歌う。そこへ王女アムネリスが登場する。彼女は密かにラダメスを愛しているが、ラダメスは誰かほかの女性を想っているのではと疑う。すると偶然にアイダも現れ、2人の女性はお互いの心を探り合う。しばらくすると突然ファンファーレが鳴り響き、国王が、高僧や神官、高位高官を引き連れて登場し、今回の征討軍の総大将は、イシスの神のお告げにより、ラダメスに決定したと発表する。するとアムネリスは、喜びの気持ちを込めて合唱とともにラダメスを激励する。大勢が引き上げ、ひとりになったアイダは、愛する人が勝てば自分の祖国は滅びてしまうし、父の国が勝利すると愛する人を失ってしまうと、矛盾する心理の相克を歌う。有名なアリア、「勝ちて帰れ」である。

場面は火の神の神殿に移り、中央には荘厳な祭壇があり、その前にランフィスや僧侶たちが並んでいる。清めの儀式が始まったところで巫女たちの合唱になり、そしてやがてバレエが展開される。ラダメスがこの場に入場し、ランフィスから神聖な鎧と剣を授けられる。彼らは武運を祈り、僧侶や巫女たちの合唱の荘厳な響きとともに幕は降りる。

第2幕

第2の都市テーベの宮殿内のアムネリスの部屋。彼女はラダメスの凱旋を迎え、その祝宴に出席するために、念入りな化粧と着付けに余念がない。そこへアイダが悲しげな表情で入って来る。アムネリスはアイダの本心を探るため、ラダメスが戦死したと嘘をつく。それを聞いたアイダが嘆き悲しむのを見て、アムネリスは自分の疑惑が当たっていたのを知り、身分違いの恋は諦めるようにと威丈高に宣告する。アイダは、自分も実はエチオピアの王女と口に出かかると、ぐっと押さえ、悲しみに耐えながらアムネリスに許しを請う。遠くから凱旋の行進の様子が聞こえ、アムネリスは憤然としたまま退場する。そしてアイダは1人残り、跪いてひたすら神に祈る。

テーベの城門。凱旋のラッパが高々と鳴り響き、歓呼して迎える民衆の合唱になる。華やかな「凱旋行進曲」に合わせてエジプト軍の入場になり、続いてバレエが展開される。凱旋將軍となったラダメスは、王より褒美には何がいかと聞かれ、捕虜たちの釈放をと答える。そこへ捕虜たちが引き出されるが、その中に一兵士に身をやつした国王のアモナスロの姿を見つけ、アイダは心を痛める。彼はエチオピアの国王は戦死したとあって、自分たちを釈放してくれと嘆願する。だがランフィスは復讐を恐れ、皆殺しにするよう強く進言する。結局ラダメスの願いが聞き届けられ、アモナスロだけ人質として残され、あとの捕虜たちは無事釈放される。アモナスロがアイダの父親だと分かっても、彼が国王だとはアイダ以外は誰も知らない。最後にエジプト国王は、ラダメスこそ娘のアムネリスと結ばれ、この国を統治するのにふさわしいと述べると、アムネリスは喜び、ラダメスとアイダは嘆く。登場人物のそれぞれが、自分の気持ちを歌っているうちに幕は降りる。

第3幕

ナイル河畔のイシスの神殿の前。美しい月夜で、ランフィスとアムネリスが、婚礼を前にして祈りを捧げるために、神殿の中に従者を従えて入る。アイダが現れ、ラダメスとの逢引を待つあいだ、故郷に思いを馳せ、アリア「おお、我が故郷」を歌う。すると突然木陰からアモナスロが出て来て、ラダメスからエジプト軍の進路を聞き出すよう命じる。彼女は最初激しく拒絶するが、親子の情にほだされて承知してしまう。アモナスロは再び木陰に隠れ、入れ替わりにラダメスがあらわれる。アイダは彼によそよそしい態度で接し、婚礼を控えたあなたが何をしに来たのかとあしらう。彼はそれに答えて、愛しているのはアイダ唯一人だと宣言する。それでは2人で逃げてと、アイダは強く迫り、エジプト軍が駐在する道は避けなければならないが、それはどこだろうと訊ねると、ラダメスはいつナバタの谷と喋ってしまう。アイダの誘導尋問に引っかかったたん、アモナスロが姿を現して、自分こそアイダの父親でエチオピアの国王だと名乗り、軍事機密を確かに聞き出したというので、ラダメスは情報を洩らしたことを激しく後悔する。そのとき神殿の方から「裏切り者」の叫び声があり、ランフィスとアムネリスが、従者とともに飛び出してくる。ラダメスはアイダとアモナスロを逃がし、ランフィスに剣を捧げ、従容として縛につく。



第4幕

王宮の一室。アムネリスは、もしラダメスがアイダを諦めて自分と結婚する意志があるなら、彼の罪を許してやろうと思い、ラダメスを廊下に呼び出し、アイダの父アモナスロは戦死したが彼女は逃げおおせたことを知らせる。そして改めて、自分と結ばれるなら助命の嘆願をしようとする。だが彼は断固として拒絶するので、アムネリスは絶望してその場へうずくまり、そのままラダメスは法廷に引き立てられて行く。やがて、地下の法廷からランフィスたちの告発の声が聞こえて来る。だがラダメスはそれらに一切無言で押し通そうとするので、ついに神殿の石室に生きながら封じ込めるという判決が下る。法廷から出て来るランフィスたちに、アムネリスは狂気のように、その裁判は誤っていると叫ぶが、ランフィスは謀反は死刑だと取り合わない。アムネリスは彼らを呪うが、もはやどうにもならない。

神殿の地下牢。生き埋めにされたラダメスは、1人で死ぬことを覚悟している。そして、ここは私の墓場だ、もうアイダに会うこともないだろうと歌う。と、片隅に人の気配がするので、びっくりしてよく見るとそれはアイダの姿である。彼女は追っ手を逃れて、先回りしてこの牢に入り、ラダメスが来るのを待っていたのだ。2人は天国で結ばれることを喜び、さらばこの世、涙の谷と最後の二重唱をうたう。地上の神殿ではアムネリスが跪き、永遠の平和と2人の冥福を祈る。石室の中では、先に絶命したアイダがラダメスの腕の中に倒れかかる。しっかりと抱きしめるラダメス、巫女や司祭の歌う祈りの合唱のうちに静かに幕は降りる。

(C) 出谷 啓 出典: モバイル音楽事典



楽劇「トリスタンとイゾルデ」(演奏会形式)

2013年7月9日/10月3日 日暮里サニーホール (ワグナーアカデミー東京共催)
トリスタン/片寄純也, 池本和憲 イゾルデ/福田祥子 マルケ王/片山将司
クルヴェナル/大井哲也, 勝村大城 ブランゲーネ/田村由貴絵, 鳥谷尚子 他



日本橋オペラ 第2回公演 歌劇「トスカ」

2016年4月30日 日本橋劇場
指揮/佐々木 修 演出/十川 稔
トスカ/福田祥子 カヴァラドッシ/小貫岩夫 スカルピア/斉木健詞 他



歌劇「さまよえるオランダ人」第2幕～第3幕(演奏会形式)

楽劇「ジークフリート」第3幕(演奏会形式)

2014年5月18日 日暮里サニーホール (ワグナーアカデミー東京共催)
オランダ人/高橋祐樹 ダーラント/小田桐貴樹 センタ/福田祥子 他
ジークフリート/池本和憲 ブリュンヒルデ/福田祥子 さすらい人/立花敏弘 他



日本橋オペラ特別公演 デュオ・オペラ・ガラ・コンサート

2017年8月27日 日本橋劇場
福田祥子/ソプラノ オスカー・ヒルブランド/バリトン ペーター・ヴァレントビッチ/ピアノ



日本橋オペラ 第1回公演 楽劇「トリスタンとイゾルデ」全曲

2015年5月2日 日本橋劇場

指揮/佐々木 修 演出/館 亜里沙

トリスタン/片寄純也, 升島唯博 イゾルデ/福田祥子 マルケ王/片山将司
クルヴェナル/勝村大城 ブランゲーネ/平館直子 他



日本橋オペラ 第3回公演 歌劇「イリス」

2018年5月27日(日) 日本橋劇場

指揮/佐々木 修 演出/館 亜里沙

イリス/福田祥子 大阪/上本訓久 京都/飯田裕之 他

中央区文化推進事業助成を受けて、人形町が旧吉原ということから、
吉原が舞台のイタリアオペラ「イリス」を上演しました。



日本橋オペラ 第4回公演 歌劇「蝶々夫人」

2019年5月26日(日)日本橋劇場(内閣府明治150年指定) 演出/田丸一宏
蝶々夫人/福田祥子 ピンカートン/上本訓久 シャープレス/飯田裕之 スズキ/栗田真帆 他



日本橋オペラ 第5回公演 歌劇「お菊さん」日本初演

2021年5月29日,30日 日本橋劇場(東京オリンピック beyond2020指定)
演出・お菊さん/福田祥子 ピエール/池本和憲 イヴ/上田誠司
勘五郎/飯沼友規 お梅/田辺いづみ お雪/高橋千夏 能舞/山井綱雄 他



長崎が舞台のフランスオペラ、メサジエ作曲の歌劇「お菊さん」を発掘、研究、
世界でも約一世紀ぶりの舞台上演は絶賛され、日本のオペラ年鑑でも紹介されました。



コロナ禍中の2020年、文化庁や東京都の助成を受けて、歌劇「お菊さん」の舞台である、
長崎とお菊さんの出身地大分県竹田市を取材、ビデオを製作、YouTubeに公開しました。



日本橋オペラ第6回公演 歌劇「貞奴姫」(文化庁AFF1)

川上貞奴生誕150年 & 没後75年記念～貞奴物語 & ヴェルディ「椿姫」名場面
2021年12月10日 日本橋劇場 指揮・構成/佐々木 修 案内役/桂米助(ヨネスケ)
演出・貞奴・ヴィオレッタ/福田祥子 桃介・アルフレード/小野弘晴 福沢諭吉・ジェルモン/香月 健 他



第1幕:1885年鹿鳴館での天長節の夜会
貞奴と桃介は恋に落ちる(乾杯の歌)

第2幕:福沢諭吉(ジェルモン)が貞奴(ヴィオレッタ)
の元を訪れ、桃介のために別れてくれと嘆願する。



第3幕:1900年パリ万博のパーティー
川上音二郎と貞奴が踊る

第4幕:1908年帝国女優養成所開所式
浪沢英一の名演説 & 椿姫の模範演技

地元日本橋出身で、日本初の女優川上貞奴の人生を、落語家のヨネスケ師匠が語り、
歌劇「椿姫」と史実に基づく舞台を融合した演出は高く評価されました。



日本橋オペラ第7回公演 歌劇「椿姫」

2022年5月22日日本橋劇場

演出／飯沼友規 ヴィオレッタ／福田祥子 アルフレード／村上敏明 ジェルモン／森口賢二 他



日本橋オペラ第8回公演 オペラ・ガラ・コンサート (文化庁AFF2)

ジャポニスム三部作(イリス・お菊さん・蝶々夫人)～アイーダ「凱旋の場」他

2022年12月3日 日本橋劇場

演出・蝶々夫人他／福田祥子 ピンカートン他／村上敏明 エジプト国王／金子慧一
ランフィス／後藤春馬 アムネリス／巖淵真理 アモナズロ／森口賢二 他

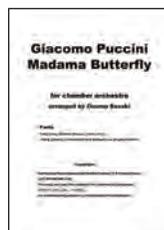
日本橋オペラ研究会では、これまでの公演のために編曲・編集した以下の楽譜を、
国際楽譜ライブラリー(ペトルッチ楽譜ライブラリー)に提供しています。



Aida (Verdi, Giuseppe)
Iris (Mascagni, Pietro)
Madama Butterfly (Puccini, Giacomo)
Tosca (Puccini, Giacomo)
La traviata (Verdi, Giuseppe)
Tristan und Isolde, (Wagner, Richard)
Madame Chrysanthème (Messenger, André)



金管五重奏版
ボーカルスコア(校訂版)
室内オーケストラ版
室内オーケストラ版
室内オーケストラ版
室内オーケストラ版
ボーカルスコア(校訂・日本語版)



日本橋オペラ2023 歌劇「アイーダ」(全曲)

AIDA/Giuseppe Verdi

作曲:ジュゼッペ・ヴェルディ作曲

台本:アントニオ・ギスランツォーニ

初演:1871年12月24日 カイロ劇場

イタリア語上演・日本語字幕付/金管五重奏・打楽器・ピアノ伴奏版(全曲日本初演)

2023年5月21日(日)14:00開演 日本橋劇場(日本橋公会堂4F)

第1幕:43分(休憩:15分) 第2幕:43分(休憩:20分) 第3幕:35分(休憩:15分) 第4幕:37分

演出/福田祥子

指揮・編曲/佐々木 修

ピアノ/追川礼章

金管五重奏“プラス・カプリオール”(Theater Orchestra Tokyo)

トランペット:佐藤秀徳 林 千紗 ホルン:鈴木希恵

トロンボーン:梅澤駿佑 テューバ:田村相円

打楽器:天野佳和

《配役》

福田祥子/ソプラノ/アイーダ

村上敏明/テノール/ラダメス

ミハエラ・ペロヴァ/メゾソプラノ/アムネリス

森口賢二/バリトン/アモナズロ

斉木健詞/バス/エジプト国王

加藤宏隆/バス/ランフィス

中野智貴/テノール/伝令

高橋千夏/ソプラノ/巫女長

《アンサンブル》

町村 彰/テノール 根岸一郎/テノール 吉田 覚/テノール

片沼 慎/バリトン 桜井 航/バリトン 川ノ上 聡/バリトン 高橋雄一郎/バス

森井美貴/ソプラノ 石井揚子/ソプラノ 東山桃子/ソプラノ 伊藤いずみ/ソプラノ

窪 瑠子/メゾソプラノ 古志佑華/メゾソプラノ 佐々木暁美/メゾソプラノ

石井 武/舞踊 土屋文太/バレエ 小杉やこ/モダンダンス

舞台監督/菅野 将

照明・舞台/(株)フルスペック

衣裳/てっしー ヘアメイク/エイミー前田
稽古ピアノ/伊藤友香, 鈴木架哉子, 松岡なぎさ

全席指定席 S席10,000円 A席7,000円

主催:日本橋オペラ研究会(中央区社会教育団体)

共催:一般社団法人日本橋オペラ研究会

日本橋オペラ後援企業(2023年5月1日現在)

